# 激動の時代を新しい視点から学ぶ日本近現代史世界恐慌から昭和恐慌へ

(http://jugyo-jh.com/nihonsi/)

#### はじめに…昭和恐慌と世界恐慌

①世界恐慌…1929年10月のニューヨーク株式市場での株価大暴落をきっかけに、世界的規模に波及した大不況。

世界が国際協調から自国第一に、戦争への道に向う。

②昭和恐慌…1930年1月の浜口雄幸内閣の金解禁政策と世界恐慌のタイミングが重なり発生した大不況。

#### I,大戦景気と1920年代

#### (I)大戦景気

- ①第一次大戦による輸入停止⇒代替産業発達・内外の需要拡大・貿易活発と船不足
- ⇒好景気=生産額急増(綿糸4倍・生糸5倍)、軍需船舶、輸出関連
- ②債務国から債権国に=資本輸出
- ③農業国から工業国へ、都市化・大衆社会化
- ④経済のバブル化→過剰生産・過剰投資・
- 雇用拡大、起業⇒生産性の低さ・賃金負担

#### 関係年表

|890~|9|0ごろ 日本の産業革命 |9|4~|9|9 大戦(後)景気

1920年代 「不機嫌な時代」

1920 戦後恐慌

1923 震災恐慌

1927 金融恐慌

1929/7 浜口内閣成立(井上財政)

/IO NY 株価大暴落(世界恐慌へ)

| 1930/| 金解禁⇒昭和恐慌へ

1931/9 柳条湖事件(満州事変へ)

/12 犬養内閣成立

⇒高橋財政=金輸出再禁止

1935 恐慌前の水準への回復

(ただし農業恐慌はつづく)

#### (2)1920年代~経済停滞と産業・社会の変化

- ①生産力停滞、貿易頭打ち・貿易赤字
- ②産業・社会構造の変化…

農村・農業⇒都市・工業に

軽工業⇒重化学工業、蒸気力⇒電力

労働者階級の大量出現、

第三次産業・俸給生活者の増大、

知識層の広がり (←中高等教育の普及)

- ③ライフスタイルの変化…大衆社会化
- ④社会の分断・差異や格差が表面化・意識化 地主と小作、「名望家」と一般住民 資本家と労働者、大企業と中小企業 知的・管理的・事務的労働と職工・女工など、 男性と女性、部落住民、沖縄県出身、

「内地人」と「外地(朝鮮人・台湾人)」人

⑤社会矛盾への怒り=社会運動の激化・多様化 普選など民主化運動、労働運動、農民運動、 社会主義、女性解放運動・部落解放運動、 民族運動

ナショナリズム・ファシズム

⑥1923 (T12)) 関東大震災の発生

#### 生産額ランキング表(武田『日本経済史』より作成)

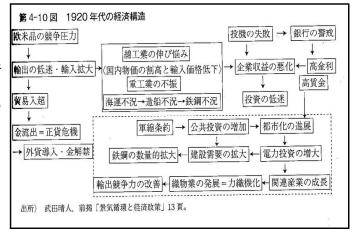
1914			1919			1929		
綿糸	204	出・内	生糸	780	出	生糸	795	出
生糸	158	出	綿糸	763	出・内	鉄道	750	<b>8市・インフラ</b>
鉄道	152	インフラ	小幅織物↓	453	内	綿糸	678	出・内派
軍工廠	149	軍需	石炭	442	旧エネ	電力	658	新エネ
小幅織物	92	内	鉄道	401	インノラ	広幅織物	526	出
石炭	80	旧エネ	小幅組織物↓	397	内	鉄鋼	378	軍縮?
清酒	70	内	海運↓	378	好況	清酒	301	内消費
鉄鋼	69	入	鉄鋼	372	入×軍	石炭	245	旧エネ
非鉄金属	64	入	軍工廠	315	軍需	軍工廠	208	軍縮
電力	57	新エネ	船舶↓	312	好況出軍	製紙	190	内文化
小幅絹織物	52	内	広幅織物	312	出	↑印刷	186	内文化
製糖	49	内消費	清酒	240	内消費	毛織物↓	176	内消費
原動機	29	入	電力	183	新エネ	製糖↓	158	内消費
製紙	29	内文化	製紙	151	内文化	↑小麦粉↓	146	内消費
毛織物	28	内消費	毛織物	122	内消費	肥料	132	内農業
印刷	26	内文化	肥料	111	入×化農	↑広幅絹織物↓	130	出
小麦粉	25	内消費	製糖	104	内消費	↑工業薬品	115	化学
肥料	25	入化農	↑撚糸	101		↑製材↓	112	内震災?
広幅織物	20	出	非鉄金属	98	入×軍	非鉄金属	102	軍

### Ⅱ、金融恐慌(1927)

#### 「広義の『昭和恐慌』の出発点」

1927年、片岡蔵相の失言をきっかけに金融不安が表面化し、中小を中心に多くの銀行が破綻した経済恐慌。いったん沈静化するが鈴木商店の倒産をきっかけに深刻化した。

<背景>



- ①大戦景気以来の負債が不良債権化。大部分が鈴木商店のもの
- →その大部分を台湾銀行が保有
- ②金融ルール・システムの未成熟 = 機関銀行・特定企業との癒着、法律等の 未整備
- ③憲政会と政友会の政争、さらに明治憲法体制の構造的問題 = 枢密院 <結果>
- ①25の銀行が休業⇒多くの預金者の預金は払い戻されない、泣き寝入り状態に
- ②不良債権の処理がすすむ→不景気の原因の多くが解消
- ③銀行の整理統合→財閥系の銀行と郵便貯金に預金が集中→地方・中小に資金が行き渡らなくなる
- ④三大財閥による経済支配がすすむ。(鈴木商店の系列会社など獲得)→資金の滞留
- ⑤田中義一政友会内閣の成立→戦争への道への第一歩

#### Ⅲ、浜口雄幸立憲民政党内閣と金解禁政策

- ①浜口内閣…国際協調外交・軍備縮小と、金解禁による経済の 立て直しを中心政策に
- ②金解禁=「金本位制復帰」政策とは
  - ・金本位制への復帰=紙幣と金正貨の引き換えを自由に →通貨発行量は金の保有量によって増減する。 (好き勝手に紙幣を発行できない)
  - ・国際間の金の移動を自由に=国際収支で通貨量が変化
- ③金解禁のねらい
  - ・産業合理化(→倒産・賃下げ・人員削減に)による 生産性向上→経済再生、国際的競争力拡大
  - ・放漫財政を改め緊縮財政へ→隠れたテーマ=軍備縮小
  - ・国際協調の一環
- ④新平価解禁論と旧平価解禁論
  - ・旧平価解禁…意図的なデフレ・不景気が前提

#### Ⅳ、世界恐慌(1929~)

- ①第一次大戦後の世界
- ・アメリカの繁栄・・・工業製品・農産物の輸出、 大量の「戦時債権」⇒「金」の過剰
- ・**ョーロッパの経済不振・・・**ドイツ賠償金問題、 国土荒廃、アジアなどの市場縮小=米資金で回復
- ②世界恐慌の発生→1929年秋、3回の株価大暴落
- ③日本への影響

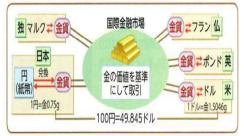
アメリカの不況→生糸輸出の激減 アジア(とくに東南アジア)市場の縮小 →綿工業への打撃

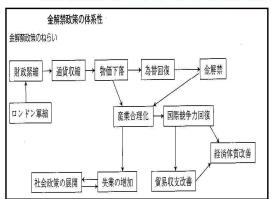
#### V,昭和恐慌(1930~)の深刻化

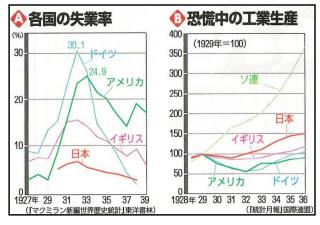
- ①恐慌の経過
- ・大量「金」流出→2ヶ月で1.5億円
- ・株価の大暴落→時価で48.8億円↓
- ・物価の下落→生糸の下落は息をのむほど
- ・賃金の下落・解雇の開始
- ②金解禁で金は流出したが
  - →金本位制の自動調整作用は機能せず
  - →世界恐慌により輸出も減少し
  - →金本位制で通貨は減少=産業刺激策困難
  - →デフレスパイラルに

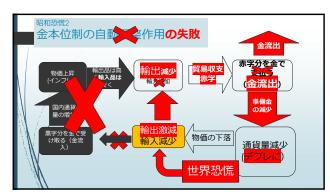


#### 金解禁政策の解説図









昭和恐慌と金解禁についての模式図

- ③賃金の下落、解雇
- = 失業者の増加と新規採用の手控え・・ 20%の労働者が仕事を失い、求職者は20 00万人を超える。
  - →失業者の多くは中小企業や単純労働者、 大企業の熟練労働者・事務系などは 賃下げのみ
  - →新規学卒者の採用手控え、 とくに高学歴層「大学は出たけれど」
- ④労働争議の活発化解雇反対・賃金支払など防衛的要求中小企業中心・急進化の傾向も
- ⑤農村の不況…東北の飢饉の深刻化 生糸=繭価の大暴落→生産量は減らず

米作=1930年の豊作飢饉と31・32年の大凶作

子弟の帰郷、出稼ぎ・賃稼ぎの減少による潜在失業者の増加 地価の低下→土地も売れない

中小地主〜純小作までほぼすべての階層がダメージをうける 「欠食児童」と子女の身売りの増加

⑥小作争議の激化

個々の参加者は減少、東北・甲信地方など後進県・養蚕県 土地取上げ反対・耕作権確保など、東北・甲信地方 ⇒軍部の危機感の高まり

- ⑦恐慌下の世相…古賀メロディ、傾向映画、エログロナンセンス
- ⑧政府の対策

財政規律を重視し、財政緊縮をいっそうすすめる →軍事費・軍事関係費も聖域化せず。

業種別カルテル結成を促進し、生産調整や価格安定を図る 労働組合法や小作保護政策などは提案はされるが、未成立 のまま

⑨軍部や民間右翼によるテロやクーデター未遂の多発 軍部・右翼・政友会一体となった軍縮反対・「統帥権干犯」問題 浜口首相狙撃事件(1930年11月→翌年4月辞職→8月死亡) 血盟団事件(32)

三月事件·十月事件(1931)→五一五事件(32)柳条湖事件(1931年9月)→満州事変

⑩31年9月 満州事変の発生

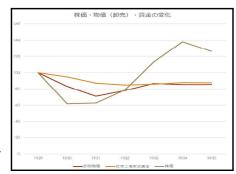
…政府の不拡大方針と軍部の独走・メディアなどの支持

#### VI、金解禁政策の終焉と高橋積極財政

- ①あいつぐ金本位制からの離脱 ⇒31年7月ドイツ、9月イギリス⇒英連邦スカンジナビア諸国 アメリカの公定歩合引き上げ
- ②井上蔵相…円防衛策の展開・財閥系銀行の円売り(⇒金流出) ⇒31年12月閣内不一致で若槻内閣崩壊=「金解禁」政策破綻
- ③31年12月高橋是清財政の開始(犬養政友会内閣成立) 通貨量の拡大(8倍強に膨張)=インフレ政策の導入
- I)金輸出再禁止=管理通貨制度への移行 準備金と無関係にいくらでも紙幣を発行できる!
- 2)大量の赤字国債を低金利で発行…全額を日銀が引き受ける ⇒インフレの発生=円暴落による円安の発生⇒輸出の急増に
- 3)積極財政の展開 = 公共事業 (⇒時局匡救事業など) 軍事予算の拡大 (⇒際限ない要求へ)



昭和恐慌にかかわる各指標 1929=100



株価・物価(卸売)・賃金の変化

## <世界恐慌の深刻化>

1931年

5月 オーストリア最大の銀行破綻

6月 ドイツの不況深刻化

米、国際債務の支払猶予を提案

7月 ドイツ、外国資金を凍結

(金本位制離脱)

イギリスでの金正貨の支払い要求殺到 9月21日 イギリス、金本位制離脱

→英連邦やスカンジナビア諸国追随 アメリカでの金流出→公定歩合引上 日本での円売りドル買いの動き活発化 12月日本、金輸出再禁止

(金本位制離脱)

1933年3月 アメリカ、金本位制離脱



ドルと円の交換レートの推移

- ④急速な経済回復=世界で最も早く恐慌から脱出
- I)円暴落による円安効果、恐慌期における人員削減などによる生産性向上効果
  - →輸出の急増(東南アジアやインドなどの綿製品のシェア拡大) →イギリスなど「ソシアルダンピング(不当な廉売)」と非難
- 2) 積極財政・公共事業の展開による需要拡大
  - →満洲事変(のち軍縮条約の終了)にともなう軍需関連の伸び
  - →重化学工業の急速な発展
- ⑤高橋財政の問題点
- 1) 国際緊張を高める
  - →ソシアルダンピング批判を受ける
    - =円安誘導による外国製品のしめだし
- →世界の保護貿易への動き(とくにブロック経済化)を促進。 ※ブロック経済=自国領や勢力圏を関税障壁で囲み、他国と の輸出入を制限する
  - →対抗措置としての「円ブロック」=アジア侵略へ
- 2) 景気上昇による資金需要の高まり = 赤字国債の売れ残りが増加 非鉄金属 102 軍
  - →金融引き締め(公共事業・軍事費抑制)の必要へ
- 3) 軍事費の拡大と公共事業の縮小
- →軍事費抑制の歯止めを外すなど財政規律の弛緩(←軍縮条約の 解消)
  - →時局匡救事業の打ち切り=農村不況への対策の不十分
- 4) 物価上昇にもかかわらず恐慌下の低賃金は維持
  - →実質賃金の低下。ただし雇用は拡大。経済格差の拡大
- 5) 軍部に対抗する論理を失う = 高橋是清という個人の力量頼りとなる
  - →二二六事件で暗殺され、最後の歯止めを失う。

#### 生産額ランキング表 井上蔵相) (高橋蔵相) (馬場蔵相以降 億円 130 70 国家歳出に占める 軍事費の割合 120 60 歳出計 100 50 国債発行額 80 40 件 60 30 40 20 20 10 38 40(年) 1928 30 36

1645 車·無工業化

909 mm 1222

835 新エネ

510 出·不振

1054 出

735 出

505 化学

379 原料

355 軍拡

335 満州?

332 内出化学

326 内文化

316 内消費

311 農·化学

285 内出化学

259 内文化

241 重工・軍

225 軍需

296 重丁

生糸

铁道

綿糸

電力

鉄鑼

清酒

石炭

軍工廠

印刷

毛織物」

型糖

吧料

小麦粉

製材↓

製紙

広幅織物

795 出

750 ஊ ↔ ∞

678 出 · 内测

658 新エネ

378 軍縮?

301 内消費

245 旧エネ

208 軍縮

190 内文化

186 内文化

146 內消費

132 内農業

112 内震災?

130 出

工業薬品 115 化学

176 內清費 製紙

158 內潛費 洁洒

526 ±

鉄鋼

綿糸

鉄道

電力

生糸

石炭

軍工廠

↑毛糸

肥料

印刷

↑人絹糸

↑雷気機械

↑人絹織物

非鉄金属

↑船舶

広幅織物

工業薬品

歳出の伸びと軍事費の比率

《高橋亀吉『大正昭和財界変動中」ほか

#### おわりに

第一に昭和恐慌はかつてなく広く、深く、長い恐慌であった。 第二に(略)テロ、クーデター、社会運動の激化など政治危機を

引き起こし、国内的にはファシズム、国外的には満州事変(…)に始まる15年戦争の引き金となった。

第三にエロ・グロ・ナンセンスという言葉に象徴されるような享楽的大衆文化を生み出し、文化的にも明治以来の激変をもたらした。

昭和恐慌は、その後の日本の運命を変えるほどの歴史的大事件であったのである。(中村 P7)

#### <参考文献>

武田晴人『日本経済史』(有斐閣2019) 『帝国主義と民本主義』(集英社1992) 中村政則『昭和の恐慌』(小学館文庫1989) 『昭和恐慌』(岩波ブックレット1989)

『労働者と農民』(小学館1976)

中村隆英『昭和恐慌と経済政策』

(講談社学術文庫1994)

鈴木正俊『昭和恐慌史に学ぶ』

(講談社1999)

秋元英一『世界大恐慌』(講談社2009) 林俊彦『世界恐慌下のアメリカ』

(岩波新書1988)

『岩波講座世界歴史27現代4』(岩波書店1971)

帝国書院『図説日本史通覧』、浜島書店『アカデミア世界史』

